



号外

おしらせ



2022年12月23日

桜ヶ丘第一保育園

☎ 042-374-3098

FAX 042-374-2828

URL kodama-kai.org

静岡の保育園の“不適切な保育（虐待）”を受けて

保育園にお子さんを預けている保護者の皆様にとっては、今回の事件は、とてもビックリされたのではないのでしょうか？同じ保育所で働いている私たちも同業種の仲間として、非常にショッキングなものとして受け止めています。

中には、『どこも同じ事があるのか？桜ヶ丘第一保育園は大丈夫かな？』と頭の片隅に浮かんだ方も少なからずいらっしゃったのではないのでしょうか。

（在園保護者の皆様には、“うちの保育園は大丈夫！”と信じていただけていることを信じて）

私たち職員も、虐待で3名の保育士が逮捕された事を大変重く受け止めています。

この事件を受けて、全職員に、国からの通達や自分たちの保育を振り返りが出来るよう“人権擁護のためのセルフチェックリスト”等を、『他園で起きた事と済ませず、どの保育園にも起こりうる事としてとらえ、職員同士風通しの良いコミュニケーションが出来る職員集団を心がけよう』という園長のメッセージとともに配布し、改めて私たちの保育に対する姿勢を再確認しています。（1月の職員会議でも論議する予定です）

今回の事件で、保育士たちが子ども達に行った行為（虐待）は、決して許されるものではありません。

逮捕された保育士は、コロナの状況下での“ストレス”が原因、と供述しているようです。保育をしている私たちも生身の人間です。保育士も精神的にゆとりが無ければ、誰もが今回のような行為となるリスクをはらんでいます。これは家庭での子育てで皆さんも感じたこともあると思いますが、余裕がなくなるとつい我が子に対してイライラしてしまう事と似ていると思います。ですが、保育のプロである私達は、倫理観や人権意識等常に意識し、心のコントロールをしながら、「あの時は〇〇の対応をしたほうが良かったですね」等、職員同士声をかけながら、子ども達への対応が適切であったかを確認しながら保育を行っています。

今回の事件の問題点として、①保育士の子ども達への人権への意識の欠如、そして②周りの職員同士の日頃の関係性（職員集団）③保育士の労働環境の3点が、大きくかかわっていると感じています。

桜ヶ丘第一保育園では、①について、私たちも日頃の外部研修や園内研修（職員同士が、お互いのクラスを見学し、子どもの見方や大人の接し方・振る舞いを観察・評価しあう学びの場）、クラス会議での学習等、日頃から“子ども達一人ひとりを尊重する保育とは何か”を念頭におき、具体的にどのような接し方が子どもたちを尊重することになるのか、個々の資質を高めるよう努めています。

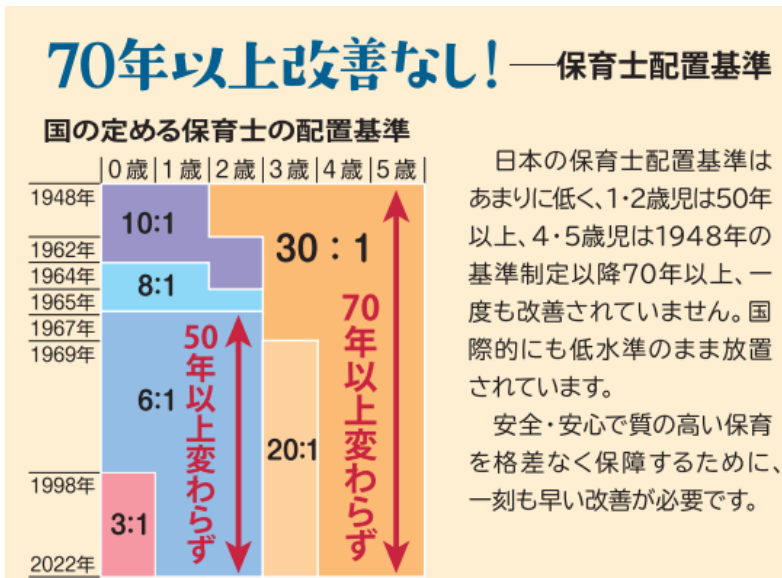
②については、気になる子どもへの関わり方があれば、園長や主任に相談し、そして指導する関係や、担任同士話し合いをしたり、世代間の違いを超えて、話し合える集団を目指し、“見てみぬふり”や“隠蔽する”事の無いオープンな集団になるよう、全職員が心がけながら働くようにしています。

中でも一番大きな課題は、③保育士が働く環境ではないかと感じています。日本では、保育を行うにあたり、「職員配置基準」（子どもの人数に対して大人1人が受けもつ子どもの人数が決まっています。）が国で決められています。



国名	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	
日本	3:1	6:1	6:1	20:1	30:1		
アメリカ	0歳児保育が無い	4:1	5:1	7:1	8:1	9:1	
イギリス		3:1	4:1	7:1	8:1	9:1	
フランス		5:1	4:1	13:1			

上記の表のように欧米諸国の職員配置基準を見比べると、日本の保育士1人が見る子どもの人数が、なんと多い事か、表を見れば一目瞭然です。国際的にも日本の基準は、先進国の中でもとても低い水準です。



日本国内に目を向けると、左図のように、戦後間もない頃に制定してから、時代は大きく変わったにもかかわらず、特に幼児の基準は一度も変更されていません。いま小学校教育でも、一クラス25人学級が導入されていますが、それより小さな未就学児であるにも関わらず、小学生より一クラスの人数が多いことになります。

余裕をもって私たちが“一人ひとりに寄り添う保育”をモットーにしていますが、これでは充分と言えないのが実情です。そのような中でコロナ禍の感染対策も加わり、保育以外の業務が増えている状況です。

しかし、その中でも当園では、もっとより良い保育をしたいと、以前から国基準の約1.4倍の職員を配置し、子ども達の安全と毎日楽しく遊べる環境になるよう整えています。運営的には、子どもの人数によって国の公定価格（運営費）が決められているのですが、当園では

基準以上の職員配置をしているので、決まった運営費の中の人件費を多くの職員で分け合っている状況となり、必然的に職員の賃金も低くなる構造になっています。元々の保育士の基本賃金が低い上に、多くの子ども達を見ないといけない今の保育制度そのものが、保育士のゆとりを無くしてしまっている原因にもなっていると感じています。

これまで、私たちはずっと国に対して、今の配置基準の低さを問題にして署名をしたり、議会に請願を出したり等取り組んできていますが、見直しを後回しにされているのが現状です。

今回の虐待の事件は、保育士個人の資質を高めることは言うまでもありませんが、その裏にある制度的な課題や保育士の労働環境、低賃金な為に保育人材が足りない事などが、大きく影響していると思っています。この点をいち早く改善しない限り、また同じような事件は繰り返されると危惧するところです。（実際次々と報道されていますよね。）

忙しくなると余裕がなくなります。「忙しい」という字は、心が亡びる＝「忙」と書きます。私達職員の心がすさんだ状態ではよい保育ができません。ゆとりのある穏やかな心をもって、日々子どもたちと向き合うことができる環境になる事を願ってやみません。また、当園では“保護者の会”があり、保護者の皆様の意見や指摘を頂くことで、より「保育の質を」上げることに繋がっているのです。“保護者の会”の存在はとても大きいものです。防犯カメラで見張るより、保護者の皆さんとの日常の対話を大事にしていきたいです。

今回の事件をきっかけに、「みんな保育士は多かれ少なかれ虐待めいたことをやっているのではないか」と思われているかと思うと、大変心が痛みます。この事件の後、都内のある保育園では散歩中に、地域の年配の方から、子ども達を散歩させている保育士に向かって、「頭叩いたらダメだぞ!」と、通りがかりに言われたそうです。

真面目に子ども達の事を考え保育をしている保育士がほとんどなのに・・・。本当につらいです。

私達は、保護者の皆様に現状をお伝えしつつ、今後も保育園の理念のもと、“子ども達の最善の利益”を求め、子どもはもとより、保護者の皆様の期待にそえるよう、保育を展開していきたいと思っております。これからも保育・運営について何かございましたら、どんな些細なことでも構いませんので、ぜひ保育園（または第三者委員）にお問い合わせください。

